

輝きを共に創造する (株)エレメント  
代表取締役 今井孔太氏

## 「仕送りゼロ」地点から見る“景色”

放送大学四年 佐藤直樹氏

放送大学の4年生の佐藤直樹と申します。本日は歴史と伝統ある札幌東ロータリークラブでお話しする機会をいただきとても光栄です。本日、皆さんにお話したい内容は3点です。1つ目は僕の自己紹介と所属している放送大学、そしてそこで過ごした学生生活について。2つ目は僕が直面している課題について。そして3つ目は、人を雇用してチャンスを与える立場にある皆さんに、私から伝えたいことについてです。

まずは自己紹介から。僕は現在、放送大学の4年生です。釧路出身で小学生の時に親が離婚したので母と弟、妹で生活をしていました。大学進学する際に北大に落ちてしまいました。一浪して再挑戦しましたがやはりダメで放送大学への入学を決めました。放送大学とは他の大学と違って通信制なので通学する必要がありません。つまりいつ授業を受けるかもいつ勉強するかも全ては自分の手の中にあるとのこと。放送大学に入学する理由は様々です。老後に教養を深めるためや短大を出た後に大卒資格を取得するため病気なので通学ができないためなどといったところ。しかし私は北大への編入を目指して入学したので極めて不純な理由です(笑)。ある意味拘束されない放送授業によって得られた自由な時間を編入のための勉強や生活費を得るための仕事に費やそうと考えていました。ですが実際は親からの仕送りなどもなかったため生活費を賄うための労働に時間を割いていかざるを得ませんでした。最初は自分で事業を立てようと思いつき、自分のできることを考えた結果趣味であるプラレール等のおもちゃ修理を仕事にしようと考えました。それと同時に海外からおもちゃの並行輸入も始めました。この事業は大学1年まで続けましたが、輸入情勢の変化により並行輸入からは撤退し、大学2年からは塾講師や営業代行も始めました。ところがその夏父親が脳梗塞で入院してしまったことで僕の生活は文字通り一変します。単身赴任の父が倒れてしまったことによって、実家のローンなどの問題に悩まされたり、倒れて運ばれた場所が遠方であったことなどの事情もあり、僕は死ぬ気で働かなければ学生以前に人として食べていくことができない状況に陥ったのでした。そんな状況の中、塾講師やおもちゃの修理に加えて飛び込み営業の仕事で稼ぐことを決意します。時には朝5時から深夜2時まで働くような生活。かなり大変でしたがその苦勞のお陰で今の自分があ

るし、自分を救ったのは紛れもなく僕自身なのだ！という自負が生まれました。

続いて、私が抱えている課題についてです。既にお分りのとおり私の学生生活は他の大学生とは大きく異なります。本来今しかできないことへ充てる時間を看病や生活費を稼ぐことにしか充てざるを得ませんでした。でもその時間や経験を決して無駄とは思っていません。飛び込み営業を経験し粘り強さが付き度胸も付いてキレられることにも簡単には動揺しなくなりました。またお金もより計画性を持って使うことができるようになりました。普通とはかけ離れた経験を通じて、どこにでもいる大学生ではなくかなり特殊な大学生になることができたと思っています。こんな僕でも順調に単位を取得して来年3月で大学を卒業できる見込みです。ですが、毎日の仕事があまりにも忙しく就職活動までは手が回らないという課題を抱えて暮らしています。

最後に、経営者である皆さんに伝えたいことを話します。僕に限らず生活費を稼ぐために働いて就活をする時間もない学生や家族の介護をしているケアラーのように特殊な道や人生の遠回りを余儀なくされる若者は沢山いると知ってほしい。一般的な大学生と比較して履歴書に華やかさなどなく一見すると学生時代に何もしていないように見えてしまうでしょう。ですが、そういった人は他人と比較して後ろめたさを抱えていたり自分の進路と大切なものどちらを優先すべきなのか?!と日々葛藤していたりするものです。たとえ、その一方で他にない特技や特性を持っている人であっても…。そしてこれは、様々な理由で進学が叶わなかった人や不登校になってしまった人にも同様に当てはまることかもしれません。ここにいる皆さんは経営者として人にチャンスを与えられる立場の方々なのだと思います。だとしたら、色々な背景を持つ若者のことをより理解して、僕も含め多くの若者たちにできる限り等しくチャンスを与えてくれるとありがたいです。



■本日のロータリーソング

君が代、赤とんぼ

2024-2025 年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーのマジック」

国際ロータリー会長：ステファニー A. アーチック

